

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

転換期中国における社会経済制度

Social and Economic Institutions in China during the Period of Transition

2. 研究代表者氏名

村上衛

Ei MURAKAMI

3. 研究期間

2016年04月 - 2020年03月 (4年度目)

4. 研究目的

本研究班は中国において社会・経済を規定してきた慣習・常識・規範・秩序・行動様式といった固有の「制度」が転換期(1980年代以降、清末民国期、明末清初期)において、どのように維持され、あるいは変容してきたのかを検討する。近20年の中国の高度成長の中で中国経済の世界経済に占める割合は高くなり、経済水準は大幅に上昇した。しかし、中国経済の拡大と人的交流の増大にともない、中国固有の「制度」が顕在化する場面も増えてきており、それらを理解できない外国人との間で様々なレベルの摩擦が生じている。この問題解決のためには、中国固有の「制度」を理解することが重要になっている。また英語圏におけるグローバル・ヒストリー研究は比較史研究を活性化させたが、19世紀以降における西欧と中国の「大分岐」あるいは日本と中国の「小分岐」についての説明は十分にできていない。それは、これらの「分岐」の背景にあるそれぞれの地域の社会経済「制度」の違いを理解していないからである。かかる歴史的な課題の解決のためにも「制度」の研究の必要性はますます高まっている。本研究班では転換期において様々な衝撃のなかから顕在化してくる社会経済「制度」を多角的に検討し、その研究成果を広く発信していくことを目指す。

In this study, we examine the continuance and transformation of Chinese institutions such as customs, common sense, rules, orders, and behavioral patterns, which have regulated its society and economy, focusing on the period of transition, i.e. from late Ming to early Qing, from late Qing to early Republican, or after the 1980's. The economic development in China during the last 20 years has attracted many foreigners seeking business opportunities. As the contact between foreigners and Chinese people increased both in and out of China, various conflicts arose

because of cultural and behavioral differences between the native Chinese and foreigners. Thus, it became important for us to understand the social and economic institutions in China. On the other hand, recent studies about global history have contributed to the advancement of the comparative historical studies, mainly in the English-speaking world. However, these studies do not fully explain the “great divergence” between Western Europe and China, or the “small divergence” between China and Japan since the nineteenth century. This is because they do not properly understand the regional difference of social and economic institutions, which have evolved a variety of “divergence”. In order to solve the historical questions above, we aim to investigate the social and economic institutions from various angles.

5 研究成果の概要

本研究班は2016年4月以来、B班として3年、C班として1年の合計4年にわたり66回の研究会を開催し、延べ1,600人あまりの方に参加いただいた。研究班のテーマが「社会経済制度」という大きなテーマであったため、時代も明清時代から現代にまたがり、専門分野も人文科学系だけではなく、社会科学系に及んだ。その結果、報告者のテーマも幅広いものとなったが、報告テーマに近い研究者を国内各地からコメンテーターとして招聘したこともあり、専門的な議論を行うことができた。その報告内容はすでに論文として公刊されているものも多い。また、人文研をはじめとする関西各地の研究機関に長期滞在している外国人研究者にも積極的にご参加いただき、報告・コメント・討論を通じて国際的な学術交流を深めることができた。大学院生には修論・博論の構想を中心に報告していただいたが、報告した大学院生はその後、修士号、博士号を取得し、国内外で活躍している。以上の定例の研究会のほか、班員の著書の書評会を4回、講演会を2回開催し、研究班とは別の角度から制度に関する議論を深めることができた。研究班の成果論文集は来年度にとりまとめて出版する予定である。

6 共同研究に関連した公表実績

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果については来年度に論文の原稿をとりまとめ、再来年度に刊行することを予定している。